

TEGOネットだより浜田

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成20年6月9日 第13号
浜田市農林業支援センター

はじめに

春の農作業も一段落したことと思います。中国地方の気象3ヶ月予報は以下のとおり発表されております。

6月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並みか高い確率40%です。

7月は平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並みか高い確率40%です。

8月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みか高い確率40%です。

(浜田市農林業支援センター長 齋藤)

目次

1. 各支援チームの活動について
2. 担い手アクションサポート事業について
3. 水稲不耕起V溝直播の播種について
4. 有機農業実践セミナーの開催について
5. 今後の行事予定

1. 各支援チームの活動について

★ 新規就農支援チーム (担当: かわうち ささもと 河内・佐々本)

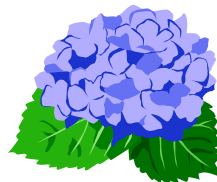
新規就農のために特化した制度資金の紹介をいたします。(※いずれも無利子)

○**研修準備資金** 先進農家における研修 月15万円×2年以内(40歳以上は1年以内)
就農準備資金 200万円 1回限り

○**就農施設等資金** 経営開始資金 18~39歳 2,800万円まで(40~64歳は1,800万円まで)

※認定就農者としての認定審査及び資金審査が必要です。

※制度資金の借入れには、農業経営ビジョンが必要です。



● 認定農業者支援チーム (担当: まえばら まつい 前原・松井)

今回は、三隅町で**水稲**と**西条柿**の経営に取り組む認定農業者、**三浦求さん**を紹介いたします。地域でも有数の水稲農家である三浦さんは、荒れていく地域の農地を守りたいとの思いから、地域の水田を集積されています。

また、三隅町の特産品でもある**西条柿栽培**では、「三隅町西条柿生産者組合」の組合長として、価格低迷や担い手不足など、産地が抱える問題の解決にも取り組んでおられます。長年培った技術を活かした**高品質果実(大玉、高糖度)栽培**や、**干柿・巻柿**といった**加工品生産**に取り組むなど、生産者組合の先頭に立って産地の復興を目指す認定農業者を支援センターでも応援していきます！



■ 集落営農組織支援チーム (担当: つかもと もりい 塚本・森井)

浜田市においても集落営農の組織化・法人化が進んでいる地域がありますが、**なぜ今「集落営農」なのでしょう**か。理由としては10年、20年先の集落の姿を考えてみてください。後継者がいない、又は高齢化が進んではいないでしょうか。家族経営では所有機械の負担が大きく、生産コストがなかなか削減できないという課題はないでしょうか。

こうした課題に対処するひとつの手法として「**集落営農**」があります。農地を利用する場合、水田や水利を管理するのは個人の力だけでは困難で、集落内の農家の参加により、地域の維持発展に向けた話し合いによる協調や協力、すなわち合意形成が大切です。話し合いにおいては、集落の夢や希望といった「**むらづくり**」の視点からの取組も大切と言えます。

支援センターでは、地域が抱える様々な問題について相談を受け、その解決に向けた話し合いのお手伝いもしています。集落の会合などにも出向いてお話を伺いますので、お気軽にご連絡ください。



農業経営に関するご相談は
ワンストップ支援窓口である
支援センターまでお気軽
にどうぞ！



2. 担い手アクションサポート事業について

支援センターが事務局を務める「浜田市農業担い手育成総合支援協議会」では、今年度、認定農業者や集落営農組織を対象とした「**担い手アクションサポート事業**」(国庫補助事業)を活用し、出前就農相談、先進経営組織の視察研修、食品産業関係者との商談会、加工品開発実験などに取り組みます。

これらの試みは、担い手の皆さんが抱える経営上の課題解決を図り、経営の改善や発展に寄与することを目指しています。詳しい活動内容や参加者募集等は、この「TEGOネットだより」でお知らせしていく予定です。

3. 水稲不耕起V溝直播の播種について



▲りりしいうしろ姿をご覧ください！

5月16日(金)、水稲の低コスト多収穫生産実験による**不耕起V溝直播**の播種を金城町波佐の実証圃で実施しました。実験2年目となる今年度は、**みほひかり**と**合川1号**という多収穫品種を用いた実証試験を実施しています。

不耕起V溝直播は、専用の播種機をトラクターに取り付けて、20センチ間隔で深さ5センチの溝を掘りながら、同時に溝の中にモミと肥料を播いていくという方式です。

当日は、**みほひかり 21a**を26分、**合川1号 16a**を20分で播種完了(10a当たり約12分30秒)となり、育苗不要というコスト面と併せて、省力化面でも期待できる結果となりました。

4. 有機農業実践セミナーの開催について

5月23日(金)に、弥栄町で**第2回有機農業実践セミナー**を開催しました。このセミナーは、食の安全・安心、環境に配慮した農産物に対する関心が高まる中、有機農産物を地域の強みと位置づけ、生産技術向上について学ぶ研修会です。

当日は、関係者も含め約35名の参加があり、講義だけでなく各生産者が抱える疑問についての質疑応答、現地での生育状況診断等、有意義な研修会となりました。

今回は、6月26日(木)~27日(金)にかけて、兵庫県丹波市の有機農業実践地区への先進地視察研修会を計画しています。また、7月・8月・10月・11月にもシリーズでセミナーを開催しますのでご参加ください。



▲弥栄町西の郷の圃場にて

5. 今後の行事予定

○6月26日(木)~27日(金) 有機農業実践セミナー 先進地視察研修 (兵庫県丹波市)

■■ 編集後記 ■■

地球温暖化、原油価格高騰が深刻な問題となっている昨今、省エネで排気ガスを出さない自転車の価値が見直されています。支援センターでは、中古の自転車を譲り受け、職員が近距離の移動に使い始めました。変速機が付いていないため登り坂は難関ですが、運動不足解消に最適。そして何よりも、まわりの景色や季節の変化を楽しみながら自分のペースで走ることができるのは大きな魅力だと感じています。

○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様へ配信しています。
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発行元 浜田市農林業支援センター TEL: 22-3500 FAX: 22-3477
E-mail: n-shien@city.hamada.shimane.jp
(メールアドレスが変わりました)